

ホーム名：グループホームひより南 ユニット1					
自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	NPO法人オリーブの園の運営するグループホームはケアにあたる職員には職員憲章九ヶ条があり、それに基づき毎年に具体的に共有できる標語を施設内に掲げ、又、憲章は個々に携帯している。	当事業所は従来の福祉概念の変革と、地域での共生社会創出を理念としている。職員は理念を明確化した「職員憲章九ヶ条」を常に携帯し、日々実践している。今年度は職員が第八条「相手の人生に敬意を払う」を選んでいく。	理念は事務所と食堂に掲示されているが、家族や地域の人の目に留まるよう玄関にも掲示されることが望ましい。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	年間の餅つきや納涼会、又、ボランティアの方々に地域から来て頂くだけでなく、地域の方々と共に交流が出来る機会作りに積極的に取り組んでいる。また、地域の行事では救護員としてホームの看護師も参加している。	ボランティア指導による民謡や三味線のクラブ活動は地域住民や家族も招待して発表会を開催、公民館での味噌作り、ふれあいサロンではカラオケやおやつを共にする等、事業所と地域との様々な交流の様子はHPで公開されている。	拡大運営推進会議では住民代表を招いて試食会を開催し、食の文化性について意見を交換している。認知症やアルコール依存症等の在宅介護の困難な事例の介護相談にも対応している。今後の、地域貢献活動に期待している。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	拡大運営推進会議を開催するなど、開催年より17回にわたり、地域の方々にも多く出席して頂き、認知症に対して等の知識を提供している。地域グループホーム交流会も主催した。又、皆さんが寄れる場として住み開きも計画中。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では外部評価についての結果や評価を報告している。また、グループホームでの看取りへの取り組みや、食事に対する取り組みなども紹介し意見交換をしている。	会議内容は先進的で充実している。拡大運営推進会議「褥瘡のラップ療法」は、東鷲宮病院副院長で褥瘡ケアセンター長の水原先生が講演で家族・行政・地域住民など64名が聴講し、消毒治療の常識が覆されたとの感謝の言葉が多く寄せられている。	運営推進会議の開催回数は4回であるが、住民の施設に対する理解の促進や、地域貢献の役割を十分に果たしており、その内容は充実している。入居者の自治会や、家族会も年2回開催されており、これらを勘案すれば6回の条件を満たしているとも考えられる。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くように取り組んでいる。	運営推進会議には市職員も必ず出席され、問題や課題について積極的な意見交換も出来ている。高齢介護課だけでなく、生活福祉課など関係部署等とも連絡を密にしている。	運営推進会議には、市介護課職員や服部包括支援センター職員、介護相談員が出席して意見交換を行うほか、外国人スタッフ受け入れに伴い、市国際交流センター等、関係各課と連携して協力関係を築いている。	市町村の関係各担当とは、今後も事業所の実情を伝えながら、防火・耐震工事等に連携して取り組み、安心・安全の施設づくりをお願いしたい。
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる	原則として身体拘束をしない事は重要事項説明書でも表明している。人権と倫理に重きを置き、身体拘束をしない学習を促進させており、職員にはパンフレットを配布している。	職員には「拘束ゼロのリスクマネジメント」により人権学習をしている。原則として身体拘束などの行動の制限は行わず、スリッパなしでの生活リハビリや、足上げ運動で大腿筋を鍛え、転倒を防いでいる。	可能な限り本人本位の、自由な暮らしの実現を望む。
7		○虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所ないでの虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修だけではなく、職員会議等においても時間をとりわけて、人権や虐待についての学習会を行っている。		

8	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>成年後見制度については家族にパンフレットを配布する等を行っているが、必要とされる方には積極的にリーガルサポートやひまわりサポート等を薦め、順調に進んでいる。</p>		
9	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>利用者や家族が持つ不安要因に対して、こちらからの説明だけでなく、不安に対しては十分に聴く姿勢も大切にし、信頼を築けるよう心掛けている。</p>		
10	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>月に1回利用者さんの自治会が行われており、職員は希望に添えるように計画し実践している。ご家族の要望は計画書に反映できるように記入欄を設けており、また、アンケート調査も行なっている。玄関には意見箱を設置し、気軽に意見を出せるよう配慮している。</p>	<p>入居者の自治会が組織されており、月1回集会を開いて外出や食事の要望を提出する。職員は要望に沿って、蟹ツアーやケーキパイキング、薔薇・コスモスの鑑賞会等を実施して入居者の満足を得ている。家族は家族会の開催、計画書、アンケートを通じ要望を出している。</p>	<p>自治会・家族会の活発な活動に期待する。</p>
11	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている</p>	<p>月1回の職員会議では各個人の意見が出やすいように工夫している。また、QOS委員会を設置し、気付きをピンク用紙に書くなど、個人の意見が反映されるシステムがある。</p>	<p>職員会議では各人の意見や研修報告、情報の共有、内部学習が行われる。ケアの質向上を目的として、職員が自主的にQOS委員会を設立しており、職員は清潔の保持、ヒヤリハット等「気付き」を提案し運営に活かしている。</p>	<p>QOS委員会で検討され、ケアの質向上に有効と認定されたものは、マニュアルに記載し、日常業務に反映され、報奨金制度もある。今後も積極的な委員会活動に期待する。</p>
12	<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>法人では職員ランクが6段階に分かれており、個々の成長度合いによりランクアップし、給与に反映されるようになっている。又、福利厚生に手厚く、資格取得助成金等も整備されている。外国人が働きやすい環境作りも制度化されつつある。</p>		
13	<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>必要に応じて資格取得を勧め、取得に対する助成金や勤務の配慮をし、内外の研修に積極的に参加させている。法人のランクにより必須研修項目があり、人材を人財に、専門職として自立していけるようなメンター的な取り組みに努めている。</p>		
14	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>拡大運営推進会議で同業者を呼ぶ機会を作る等、同業者間交流を図る事を積極的に行っており、講演会等もしている。</p>		

Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>特に入居時は本人もご家族も不安なことが多いと思われ、細やかな声掛けなどを多く行い、慣れて頂く事を第一に計画している。</p>		
16	<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>ご家族の介護苦勞等に関わり、傾聴する事を主に不安の解消に努め、信頼の構築に努めている。</p>		
17	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>引越し方法や送迎等、ご家族にとっては入居する段階での心配事も多く、事前面接や入居直前での打ち合わせ等、個々ニーズに合わせた支援を行うが、特に待機の間所等については、他のサービスを含めた待ち方法を選択できるよう提案している。</p>		
18	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>和風料理、味噌作り、らっきょう、梅酒作り等、若い人たちが知らない事などを昔とった杵柄で教えてもらいながら、相互のラポール形成の構築は“共に在る”ことの喜びであると捉えている。</p>		
19	<p>○本人と共に過ごし支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>時にご家族と本人の関係改善にも介入する場合もあるが、共に本人を支える事を前提に情報交換を行い、在宅への復帰も視野に入れた総合的な方針を打ち出している。</p>		
20	<p>○馴染みの人や場と関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>面会日や時間においても常識的な範囲であれば特に制約していない。グループホームに入居しても以前の馴染みの関係が断ち切れることなく過ごせるように、年賀状書き、又お便り書き等の手伝い等も支援している。</p>	<p>食材の買い出しにスーパーマーケットに出かけたり、洗濯にコインランドリーまで出かけている。面会時間は10:00~16:00と定められているが、常識的な範囲であれば緩やかに運用している。</p>	<p>来訪者の宿泊に関しては事前の許可が必要である。看取りの期間中は、身元引受人も宿泊できるよう配慮している。</p>
21	<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>クラブ活動やレクリエーション、外出行事、ホーム内自治会等を通じて仲良くなれる機会の提供や、新入居の場合、自治会長などの助けを通して支援してもらっている。</p>		
22	<p>○関係を断ち切らない取組み</p> <p>サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>自宅に帰られた時や、死亡退去された家族にも折にふれて必要があれば相談にのり、又、みえられたりお手紙を頂いたりしている。NPOとして社会福祉の一端を担っており、絆やつながりを大切にしている。</p>		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人一人の個々の思いや暮らし方の希望は日々のコミュニケーションの中で、引き出せるような会話に努めている。	入居時のアセスメントで、長年の生活習慣や暮らし方の希望は把握できている。一人ひとりの行きたい場所の希望実現は、片道1時間位を目途として本人の意向に沿えるよう努力している。	入居者が見たいという白川郷の風景を、職員が代わりに行きその場所の風景を写真に収め、施設の壁面に飾る等本人の願いを実現している。日常業務多忙中、献身的な行動に脱帽する。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努める	出生地や方言、食事の味付け、習慣等も回想法に活用し、パーソンセンタードケアとして安心して生活できるようにバックヒストリーを収集する事に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人々の強みを活かし弱みをサポートできるように、健康状態を中心にADL、IADLを把握し、セルフケアをアセスメントすると共に、その日・その時の本人の自立度におけるニーズをサポートしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画の大まかな方針は、主治医・利用者・ご家族とのインフォームドコンセントや施設側との話し合いでその方針が決定する。具体的にはその月の成果目標と援助目標、課題分析をあげ現在の問題をアセスメントしながらチームで情報の共有を行い、健康面や生活面、又、認知症の問題解決等の具体策を月々に、又、年間にも繋ぎ、モニタリングを施行して次年度の計画にも繋いでいる。	介護計画は本人・家族・主治医等関係者で話し合い、心身の状況に即した計画を作成している。地域の中で自立した暮らしを継続するため長期及び短期目標、課題が明記されている。成果目標として生活上のリスク要因や認知症進行予防ケアなど、援助目標として失禁対策や生活リハビリなど、具体的に目標を定めている。援助の成果をモニタリングし新たなアセスメントとプランニングに繋げている。	午前か午後1回、本人の話した言葉の内容(サブジェクト)や、観察したこと(オブジェクト)を電子記録するS・O・A・P方式を採用することにより、職員間で容易に情報を共有でき、アセスメントやプランニングに活用している。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	アセスメントできるように、記録はS・O・A・P方式とし、電子カルテで情報の共有を図りながら、モニタリングなどで根拠も明確にしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に見えるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	季節行事では地域に開放したり、大学の実習や、ボランティアの受け入れなども行っている。家族が宿泊をしたり、一緒に過せる場所や、地域の集会所としてのスペースも設けている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ホーム入居後も入居前と変わりなく、馴染みの美容院や銭湯に行ったり、お墓参り、校区の行事にも参加できるよう機会提供をしている。又、街かどデイハウスの利用や公民館等への参加も個別に計画している。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している	往診専門の医療機関と提携しており、月2回の定期往診により、居宅療養管理が出来るように支援している。又、24時間365日いつでも往診可能となっている。尚、希望があれば本人のかかりつけ医の受診も支援している。	提携先医院と24時間連絡体制が出来ている。必要により往診してもらえる。かかりつけ医は基本的には家族がする。歯科医も定期口腔管理と突発的往診にも対応している。	家族の役割も残して、基本的にかかりつけ医の受診は家族がしている。家族ができない事情の時は職員が受診に付き添っている。

31	<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している</p>	<p>介護士は健康上気づいた事を報告し、看護師は医師と受診などの調整を行っている。医療連携ホームとしてホーム内看護師がいるが職員の健康管理を含めて、健康診断等全体の保健・衛生も管理している。</p>		
32	<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>グループホームから病院に対してのサマリーを提供している。又、病院の相談員とも連絡調整している。入院中や特に退院に際しては、医療関係者と直接面談を行い、退院に向けての支援、相談などを行っている。</p>		
33	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>終末期に向けた方針等はホームドクター、家族、施設側とのインフォームドコンセントにより入居時と定期的に行なっている。また必要時には適宜行われている。ご家族も共に参加できる看取りとなるように援助している。</p>	<p>重要事項説明書にホームで終末の看取りをすることは明記してある。意志のある時に本人から延命治療のことも聞いてあり、医師も終末については直接入居者に聞いている。エンゼルケアもホームでする。</p>	<p>終末もずっとホームにいられることで入居者は落ち着いた日々を過ごすことが出来ている。「ホーム内での看取り・死後処置研修報告」に参加した家族からは「綺麗にしてくれる配慮、対面の仕方がすばらしい」との感想を得ている。</p>
34	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>ほとんどの職員が救命講習を受講し、豊中消防署より市民救命サポーターステーションに認定されている。救急マニュアルも職員各人に渡し、訓練も定期的に行っている。</p>		
35	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>災害時対策マニュアルを作成し訓練を行なっている。消防訓練では利用者も参加して非難等の訓練を行なっている。また、自治会の防災訓練等にも参加し地域連携も図っている。23年度、スプリンクラー設置工事を予定している。</p>	<p>スプリンクラーは耐震工事・建築基準法に伴う工事と同時に平成23年度に設置工事を行う予定である。火災通報装置は消防法の基準ではつけなくても良いが同時期に設置する予定である。消防訓練は入居者も参加しておこなった。</p>	<p>2階へは階段のみである。災害が起こった時の役割分担を決めておかれたい。昨年指摘された備蓄品のホーム内保管は出来ている。</p>

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	<p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>当法人としてプライバシーポリシーを作成し、ホームページなどでも公開している。人権や倫理に基づいた接遇マナー等の研修も行っている。</p> <p>今年の標語は「常に自分に置き換えて、相手の人生に敬意を払う時、言葉ひとつが輝くと思うこと」である。</p>	<p>NPO法人オリーブの園の職員憲章九ヶ条を基本理念として徹底している。理事長・管理者は職員に研修以外でも日々気が付いたときは教えている。</p>	<p>憲章にあるように、心にあることが自然と表われる。長く生きてこられた高齢者がホームでの生活が良かったと思ってもらえるように、これからも更なる研鑽を期待する。</p>
37		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>家庭的な共同生活の中では遠慮なく自己決定や自己選択が出来る雰囲気があり、自治会等も利用者主体で運営されている。その中で活発な意見も出されており、職員は要望により行事計画を行い実践している。</p>		
38		<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>グループホームは共同生活といえども、一人々の生活の場であり、その人の生活リズムを大切に暮らしを支援している。</p>		
39		<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している</p>	<p>身だしなみはその方の自尊心を守る大切なものであり、特に外出時等はTPOに配慮し、マニキュアや化粧などにも心がけている。</p>		
40	15	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>季節感があり、目で見てきれいで、家庭的な雰囲気の中で、利用者さんの力も借りて楽しく食事が出来るコミュニケーションも食の文化性と共に大切にしている。又、生活リハビリとして食器ふき、盛り付け等は利用者さんと一緒にしている。</p>	<p>食文化を大切にホームでの食事を充実させている。またホーム自治会で入居者の要望を聞いて蟹ツアーに行ったり、ケーキバイキングなど多彩な楽しむ食事となっている。</p>	<p>高齢者にとって、食は楽しみの一つである。ホーム自治会が開かれ入居者は意志の表出が出来（個人差はあるが）、要望も出せる。要望に添った外食なども取入れている。野菜は借り農園で無農薬野菜を作っている。地主さんが最近は無償で貸してくれホームを支援してくれている。</p>
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、集会に応じた支援をしている</p>	<p>栄養や水分補給の目安は計画の中に入れており、不足する場合は食事形態や嗜好に配慮し、食事回数を変更するなど工夫している。夏季や冬季は特に脱水に留意している。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>個々の状況に応じたサポート方法はセルフケア計画の中で示されており、半年に一回は専門歯科医師による口腔ケアチェックや指導を頂いている。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>排泄はできるだけオムツに頼らずトイレでの気持ちの良い排泄が出来るように、排泄のサインをつかみ、適宜、又、定時のトイレ誘導などに努め、失敗が少ないように努めている。</p>	<p>夜中トイレに頻繁に起きていた入居者のため医師・家族と相談、睡眠センサー使って原因を調べ対応した結果、夜熟睡が出来、頻尿の症状も治った例がある。個々の入居者に即した排泄支援している。</p>	<p>各居室にトイレがあり、各自特に失敗は少なく（介護度にもよる）過ごしている。排泄の自立支援は入居者自身が一番望むことである。引き続き木目細かい支援をされたい。</p>
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>便秘は水分・運動・セルロースの多い食事が関与しており、一人々の飲水の目安などを定めている。又、季節や発熱によって不感蒸泄にも配慮し、水分補給には特に気配りしている。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>身体を清潔にするだけでなく、入浴は心のホリデーであり、季節を感じさせる柚子湯や菖蒲湯など、又、入浴剤等の工夫で良いコミュニケーションと共にリラックスできる場面を提供している。</p>	<p>全ての入居者が週に3回は入浴するように声掛けをして、ゆっくり入浴できる支援をしている。3人が入られるお風呂であり、仲良し2人で入っている入居者もいる。</p>	<p>肌の保湿のために入浴剤を使用している。また菖蒲湯や、柚子湯など行事のお風呂を沸かして、心のリハビリテーションを計っている。今後も継続されることを期待する。</p>

46	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	施設全体が有機的でリラックスできる場所も多く、居室も家庭的な雰囲気です。特に緊張感もなく、ベッドではいつでも休息できる環境が整えられている。		
47	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や要領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬ボックスへの薬のセットは薬剤師に依頼している。与薬はホームの看護師が行い服薬を確認している。介護士にも薬の知識、副作用や留意点に至るまで学習を提供し、その冊子はいつでも見ることが出来るよう定位置に備えている。		
48	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活リハビリとして料理や配膳等の役割もあるが、自治会やクラブ活動等もあり、自己実現としての発表会の場や機会も生きがい支援として行っている。		
49	18 ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	日常的には近隣の公園やスーパーなどその時々希望によって外出機会を多く設けている。また、外出行事は“自治会”により、利用者さんの希望や要望を聞き、車で片道1時間前後を目途に、出来るだけ要望に沿えるよう、集団や個別での対応に努めている。	2階の入居者は、普通の階段を上り下りしている。其れがリハビリになるのか、特に転倒は起こったことはない、と理事長の話である。入居者の要望により散歩、買い物物の支援はおこなっている。	個別には買い物、お寿司、喫茶店なども要望により出かけている。中・遠出の遠足は殆ど入居者が参加する。街中に出かけることは社会の一員であることを自覚でき、五感の刺激も受ける。これからも支援を続けていただきたい。
50	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	日用品を近隣のスーパーで買ったり、外出行事等ではお土産を買う等の個別の買い物もサポートをしている。		
51	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	最近は携帯電話を持つ人もいるが、家族に電話をかけることをサポートしたり、電話の取次ぎも行なっている。		
52	19 ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を大切にし、家庭的で明るい雰囲気を大切にしている。音楽や香り、花や緑、熱帯魚などのふれあいもリラックス感がある。施設内には有線等で心地良い音楽がいつも流れている。又、施設内の表示などは出来るだけ短く、わかりやすい言葉を使うなど、混乱を招く事のない様に配慮している。	玄関のプランターには春の花が沢山植えられていた。また、法人名のオリーブの木も数本植えてあって、レンガ造りの外壁によく合っていた。リビングや廊下は手づくりの飾りがあり、暖かい空間である。	食事中には「間数隔てて琴を聴く」の言葉どおり何処からか琴の音（有線放送）も聞こえてきた。和の食事と良く合っていた。入居者同士の会話もあり、隣りの人に心配りをする姿も垣間見られ家庭的といえる。
53	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ゆったりとしたスペースがあり、居間でくつろいだり廊下でもソファなどを用意して居場所作りを工夫している。		
54	20 ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の住みなれた部屋をできるだけ再現できるように使い慣れた家具等も持ち込んで頂く等の工夫をしている。	使い慣れた家具はもとより、時計・カレンダーが設えられ、入居者の好みに副った部屋になっていた。	拝見した部屋は馴染みの部屋として設えられている。ホームには掃除担当の職員がいるので居室、共有部分とも掃除は行き届いていた。
55	○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内の表示はわかりやすく、言葉のセンテンスを少なくしている。色の工夫やデザインを活かし、さりげない中にもわかりやすさを工夫している。		

V アウトカム項目		
56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての利用者と ②利用者の3分の2くらいと ③利用者の3分の1くらいと ④ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
66	職員は生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族が ②家族の3分の2くらいが ③家族の3分の1くらいが ④ほとんどできていない